

## 第3回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップ 議事録

(要点筆記)

- 日 時：令和6年11月30日(土) 13時30分から16時30分まで
- 場 所：熊谷市荒川公民館
- 次 第：1. チェック・イン（開会、挨拶 等）
  - 2. 情報の共有
  - 3. ワークショップ
    - 1) 本日の進め方
    - 2) 検討① かわまち計画案の確認（論点1～3、論点4（ハード））
    - 3) 検討② 市民・行政協働でのかわまち活動（案）について（論点4（ソフト））
    - 4) テーブル確認・発表
  - 4. チェック・アウト
- 出席者：（出席者）計17名  
（欠席者）計7名  
（アドバイザー）埼玉大学教授 田中 規夫  
（事務局）熊谷市 建設部
  - 建設部河川課
  - 都市整備部公園緑地課
  - 都市整備部都市計画課
  - 産業振興部商業観光課（ファシリテーター）徳島大学客員教授 澤田 俊明
- 資 料：プログラム（第3回）、WS参加者のみなさんへ
  - 資料1 第2回ワークショップ・ニュースレター
  - 資料2 社会実験の報告
  - 資料3 熊谷市荒川かわまちづくり計画（案）
  - 資料4 意見まとめ
  - 資料5 かわまちづくりでの活動（案）
  - 資料6 今後の予定

1. チェック・イン	
事務局	・開会の挨拶。
ファシリテーター	・アイスブレイク。
2. 情報共有	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 1 をもとに、第 2 回ワークショップの振り返りを行った。</li> <li>・資料 2 をもとに、10 月 6 日と 26 日に行った社会実験の結果を報告した。</li> <li>・資料 3 をもとに、11 月 25 日時点版のかわまちづくり計画（案）を説明した。</li> <li>・資料 4 をもとに、今までいただいたご意見をまとめた表の説明を行った。</li> <li>・資料 5 をもとに、11 月 25 日時点版のかわまちづくりでの活動（案）を説明した。</li> </ul>
参加者	・資料 29 ページの体育館の位置が現況の位置と違うので注意が必要である。
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験を 2 回見た中で 2 つ感じたことがある。 1 つ目は、活動に関することである。子供が喜んでいる姿は癒しであり、地域の活力を感じて非常に良いと感じた。また、自然観察会で生き物に触れることは座学では得られない貴重な教育であり、大人になるまでいい影響を及ぼすのではないかと感じた。そういう場をつくれる意義、このかわまちづくりをつくるということの意義を感じた。 2 つ目は、この熊谷という場所がかわまちづくりをやるという意味である。ここは駅から非常に近く、堤防に登ると川が見える。それから少し歩けば川らしい川（＝砂州に植物が生えていて、滞筋が曲がっていて、流れの速い瀬があって、ワンドがある川）を感じる。荒川の上流は、自然の豊かな場所はあるが流れが速い、あるいは河岸段丘が発達していて町から非常に遠く、下流は川が見えない。川の様子として我々が思い浮かべるような川がコンパクトに詰まっているのが今回社会実験をやっている場所であり、荒川の中でも代表的な絶好のポイントでかわまちづくりをやるという事を改めて感じた。</li> <li>・過去 2 回のワークショップで方針や計画範囲、主要機能、活動に関する様々な意見をいただき相互理解が深まり、いただいた意見をもとに今回の社会実験に反映したうえで、かわまちづくり計画案ができています。先ほど説明があったように、多くの意見は反映されており、課題や留意点は今後の活動の中で反映していく予定である。</li> <li>・かわまちづくりはハード的に箱モノを作れば終わりではなく、今後の活動案をしっかりと考えて議論し活動を続けていく事で、良いものになっていくと考えるため、今まで以上に意見を出していただき、今後の活動も含めて良いものになるよう議論していただきたい。</li> </ul>

<b>3. ワークショップ 1) 本日の進め方</b>	
ファシリテーター	・ワークショップの進め方を説明した。
<b>2) 検討① かわまち計画案の確認</b>	
テーブルファシリテーター	・かわまちづくり計画（案）への意見反映の確認を行った。 ・拠点整備図に賛成、懸念（今後の課題、留意点）、その他意見を頂いた。いただいたご意見を表 1-1～表 4-2 に示す。
<b>3) 検討② 市民・行政協働でのかわまち活動（案）について</b>	
テーブルファシリテーター	・市民・行政協働でのかわまちづくり活動（案）の事務局案を説明した。 ・かわまちづくり活動（案）に賛成、懸念（今後の課題、留意点）、その他意見を頂いた。
<b>4) テーブル確認・発表</b>	
代表者	・テーブル毎にいただいた意見の読み上げを行った。
<b>4. チェック・アウト</b>	
ファシリテーター	・ワークショップで意見が言えた、意見が聞けた、ワークショップの時間（長さ）、満足度について◎、○、△でシールアンケートを行った。
アドバイザー	・「荒川は財産だ」、「今の荒川を大事に」、「改悪しない」、「開発するならいいものを残したい」といった市民の思いが伝わった。 ・いただいたたくさんのご意見は次回の協議会で議論をして、良いものが残るようにする。 ・ワークショップで議論したことが反映されていないということが無いよう、いただいた意見を引き継ぎ、反映できなかった意見は理由を添えるなど何らかの形で残して、かわまちづくり計画が進むと良い。
ファシリテーター	・ワークショップの成功の要件は、①みんなで考えれば良いものができる（計画合理性）、②意見が反映されている（意見反映性）、③みんなが納得している（手続き合理性）と言われている。 ・ワークショップの満足と参加について、「人は他人から命令されたり押し付けられたりすることは嫌う。一方で、人は自ら考えたことは実行する。」これは広島大学で長年教べんをとられた長町三生先生のお言葉であり、30年以上も人を観察し続けた結果をまとめたもの、とのこと。そして、長町先生の研究より、人間の満足は、自我関与と責任感などが喜びや満足度に結び付くそうである。そして、この自我関与と責任感、参加で強化される。 ・熊谷市荒川かわまちづくりワークショップに参加された皆さんは、まさに自我関与・責任感が自然と強まり荒川やかわまちづくりへの満足度が高くなったと思う。

事務局

- ・今後とも熊谷荒川かわまちづくりをよろしくお願いいたします。
- ・閉会の挨拶。

以上